《2019 年度年間授業・行事予定》

4　月				5　月				6　月			
日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実
1	月	入　寮　日		1	水	使徒聖ピリポ･ヤコブ		1	土		①
2	火	9:00 ウ主教碑清掃		2	木			2	日	復活節第７	㊎
3	水	入　学　礼　拝		3	金			3	月		
4	木	リトリート		4	土		①	4	火		
5	金	オリエンテーション		5	日	復活節第３	㊎	5	水		
6	土			6	月			6	木		
7	日	大斎節第５ 実習先教会出席	㊎	7	火			7	金		
8	月			8	水			8	土		①
9	火	１学期授業開始		9	木			9	日	聖霊降臨日	㊎
10	水			10	金			10	月		
11	木			11	土		①	11	火	使徒聖バルナバ	
12	金			12	日	復活節第４	㊎	12	水		
13	土	１学期教会実習開始	①	13	月			13	木		
14	日	復活前主日	㊎	14	火			14	金		
15	月	復活前月		15	水			15	土		①
16	火	復活前火		16	木			16	日	三位一体主日	㊎
17	水	復活前水		17	金			17	月		
18	木	聖木曜日		18	土		①	18	火		
19	金	聖金曜日		19	日	復活節第５	㊎	19	水		
20	土	聖土曜日	①	20	月			20	木		
21	日	復活日	㊎	21	火			21	金		
22	月	復活後月曜日		22	水			22	土	１学期授業終了	①
23	火	復活後火曜日		23	木			23	日	聖霊降臨後第２	㊎
24	水	復活後水曜日		24	金			24	月		
25	木	復活後木曜日		25	土		①	25	火	洗礼者聖ヨハネ誕生日	
26	金	復活後金曜日		26	日	復活節第６	㊎	26	水		
27	土	復活後土曜日	①	27	月			27	木	試験準備･補講週（授業なし）	
28	日	復活節第２	㊎	28	火			28	金	※ＣＰＥあり	
29	月	福音記者聖マルコ		29	水			29	土	使徒聖ペテロ・パウロ	×
30	火			30	木	昇天日		30	日	聖霊降臨後第３	㊎
				31	金						

7　　月				8　　月				9　　月			
日	曜	予　　定	実	日	曜	予　定	実	日	曜	予　　定	実
1	月			1	木			1	日	聖霊降臨後第 12	
2	火	↑		2	金			2	月	入　寮　日	
3	水			3	土			3	火	面 接（成績関係）	
4	木	試　験　週		4	日	聖霊降臨後第８		4	水	２学期授業開始	
5	金	※ＣＰＥあり		5	月			5	木		
6	土	↓	①	6	火	主イエス変容の日		6	金		
7	日	聖霊降臨後第４	㊎	7	水			7	土		×
8	月	↑		8	木			8	日	聖霊降臨後第 13 他教派礼拝出席	×
9	火			9	金			9	月		
10	水	夏　期　実　習		10	土			10	火		
11	木			11	日	聖霊降臨後第９		11	水		
12	金	↓		12	月			12	木		
13	土		①	13	火			13	金		
14	日	聖霊降臨後第５ １学期教会実習終了	㊎	14	水			14	土	２学期教会実習開始	①
15	月			15	木	主の母聖マリヤ		15	日	聖霊降臨後第 14	㊎
16	火	面接（礼拝・生活・学び）		16	金			16	月		
17	水	面接予備日		17	土			17	火		
18	木	終　業　日		18	日	聖霊降臨後第 10		18	水		
19	金	ニュース発送（予定）		19	月			19	木		
20	土	出　寮　日		20	火			20	金		
21	日	聖霊降臨後第６	①	21	水			21	土	福音記者使徒聖マタイ	①
22	月	マグダラの聖マリヤ	㊎	22	木	体験入学案内発送（予定）		22	日	聖霊降臨後第 15	㊎
23	火			23	金			23	月		
24	水			24	土	使徒聖バルトロマイ		24	火		
25	木	使徒聖ヤコブ		25	日	聖霊降臨後第 11		25	水		
26	金			26	月			26	木		
27	土			27	火			27	金		
28	日	聖霊降臨後第７		28	水			28	土		①
29	月			29	木			29	日	聖霊降臨後第 16	㊎
30	火			30	金			30	月	聖ミカエル諸天使	
31	水	VIA MEDIA 発送（予定）		31	土						

１０　月				１１　月				１２　月			
日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実	日	曜	予　定	実
1	火			1	金	諸聖徒日 ※ＣＰＥあり		1	日	降臨節第１	㊍
2	水			2	土		×	2	月	14:00 レクイエム	
3	木			3	日	聖霊降臨後第 21	㊍	3	火		
4	金			4	月			4	水		
5	土		①	5	火			5	木	試　験　週	
6	日	聖霊降臨後第 17	㊍	6	水			6	金	※ＣＰＥあり	
7	月			7	木			7	土		①
8	火			8	金			8	日	降臨節第２ ２学期教会実習終了	㊍
9	水	体　験　入　学		9	土		①	9	月	降臨節第２	
10	木			10	日	聖霊降臨後第 22	㊍	10	火	面接（礼拝・生活・学び）	
11	金			11	月			11	水	面接予備日	
12	土		①	12	火			12	木	終　業　日	
13	日	聖霊降臨後第 18	㊍	13	水			13	金	ニュース発送（予定）	
14	月			14	木			14	土	出　寮　日	
15	火			15	金			15	日	降臨節第３	
16	水			16	土		①	16	月		
17	木			17	日	聖霊降臨後第 23	㊍	17	火		
18	金	福音記者聖ルカ		18	月			18	水		
19	土		①	19	火			19	木		
20	日	聖霊降臨後第 19	㊍	20	水			20	来		
21	月	9:00 ウ主教碑清掃		21	木			21	土	使徒聖トマス	
22	火			22	金	２学期授業終了		22	日	降臨節第４	
23	水			23	土	（京都教区会）	×	23	月		
24	木			24	日	降臨節前主日	㊍	24	火		
25	金			25	月			25	水	降誕日	
26	土		①	26	火			26	木	聖ステパノ	
27	日	聖霊降臨後第 20	㊍	27	水			27	金	福音記者使徒聖ヨハネ	
28	月			28	木	試験準備・補講週 （授業なし）		28	土	聖なる幼子	
29	火			29	金	※ＣＰＥあり		29	日	降誕後第１	
30	水	リ　セ　ス		30	土	使徒聖アンデレ	×	30	月		
31	木							31	火		

1　　月				2　　月				3　　月			
日	曜	予　　定	実	日	曜	予　　定	実	日	曜	予　　定	実
1	水	主イエス命名日		1	土		①	1	日	大斎節第１	㊍
2	木			2	日	被献日	㊍	2	月		
3	金			3	月			3	火		
4	土			4	火			4	水		
5	日	降誕後第２		5	水			5	木	試　験　週	
6	月	顕現日 入　寮　日		6	木			6	金		
7	火	面 接（成績関係）		7	金			7	土		①
8	水	３学期授業開始		8	土		①	8	日	大斎節第２ ３学期教会実習終了	㊍
9	木			9	日	顕現後第５	㊍	9	月		
10	金			10	月			10	火	大斎節第１ 面接（礼拝・生活・学び）	
11	土		×	11	火			11	水	面接予備日	
12	日	顕現後第１ 他教派礼拝出席	×	12	水			12	木		
13	月			13	木			13	金	卒　業　礼　拝	
14	火			14	金			14	土		
15	水			15	土		①	15	日	大斎節第３	
16	木			16	日	顕現後第６	㊍	16	月		
17	金			17	月			17	火	大斎節第２	
18	土	３学期教会実習開始	①	18	火			18	水		
19	日	顕現後第２	㊍	19	水			19	木	聖ヨセフ	
20	月			20	木			20	金		
21	火			21	金			21	土		
22	水			22	土	３学期授業終了	①	22	日	大斎節第４	
23	木			23	日	大斎節前主日	㊍	23	月		
24	金			24	月	使徒聖マッテヤ		24	火	大斎節第３	
25	土	使徒聖パウロ回心	①	25	火			25	水	聖マリヤへのみ告げの日	
26	日	顕現後第３	㊍	26	水	大斎始日		26	木		
27	月			27	木	試験準備・補講週 （授業なし）		27	金		
28	火			28	金			28	土		
29	水			29	土		×	29	日	大斎節第５	
30	木							30	月		
31	金							31	火	大斎節第４	

《ウイリアムス神学館の礼拝》

礼拝は、ウイリアムス神学館における神学教育を根底から支える最も大切な行為である。礼拝を意味する様々な言葉は、「仕える」ことと関連している。わたしたちは日々の礼拝生活を通して、神とこの世界に仕えることを体験的に学び、また将来み心ならば、奉仕職としての職務を果たすための備えをする。

神学生は祈祷書等のルブリックおよび下記の諸注意をよく理解し、十分な準備をして礼拝に臨むことが望まれる。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
7:00	各自	9:00- 聖餐式	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り	朝の礼拝／祈り み言葉の礼拝(月1回)
12:05	各自	昼の祈り	嘆　願	昼の祈り	嘆　願	昼の祈り
17:30	各自	夕の礼拝／祈り	夕の礼拝／祈り	唱詠夕の礼拝	夕の礼拝／祈り	(教会実習のない日) 各　自

Ⅰ　神学館共同体礼拝の約束事

1．週　　日

(1) 朝夕の礼拝と朝夕の祈りを隔週で用いる。

(2) 朝の祈りの時、聖歌は第１日課の後で用いる。夕の祈りの時、「聖書（新約聖書)」および聖歌は朝の祈りに準ずる（第１日課、第２日課を朗読する)。

(3) 詩編は座って唱える。詩編・賛歌などの「‖」は少し間を開け、句読点は続けて唱える。詩編・賛歌は司式者側と日課朗読者側とで交互に唱える。司式者と会衆が交互に唱えてもよい。歌う場合には、句読点で少し伸ばし、「‖」の間は息継ぎ程度にする。

(4) 毎月１回、土曜日の朝は「み言葉の礼拝」を行う。これは主日・祝日に用いるものであるが、神学館ではこの日に用いる。

(5) 第４土曜日は朝の祈りの週であっても朝の礼拝とし、「共同懺悔」を行う。

(6) 土曜日の「夕の礼拝／祈り」は、各自で行う。

(7) 聖職按手節、昇天前祈祷日は「用いてもよい」節・日であるが、神学館の礼拝では該当する祈りを代祷の個所で祈る。（聖職按手節は聖職按手、聖職のみに限定されず、広く神の民全体の様々な職務のための節なので、ふさわしい祈りを諸祈祷、特祷その他より探す。また昇天前祈祷日には「産業と産物のため」の祈りを用いる。）

(8) 小祝日の特祷を用いる場合は、「朝の礼拝／祈り」の代祷の箇所で行う。

(9) 聖餐式の前夕には、「夕の礼拝／祈り」に引き続き、「聖餐準備の式」を行う。

(10) 「聖餐準備の式」は、１．または２．と、３．４．５．のどれか一つを組み合わせるか、６．を単独で用いる。

2．祝　　日

(1) 大祝日には火曜日を除き午前７時より聖餐式を行う。月曜日・休暇の日が大祝日に当たる場合は復活前月曜日および復活後月曜日を除き聖餐式を行なわない。

(2) 昼の祈りでは「祈りましょう」の後に、嘆願では 104 頁で、祝日の特祷を入れるようにする。

(3) 夕の礼拝で祝日の聖語を用いる場合は「奉献唱、特別叙唱」（188 頁以下）のルブリックに注意する。

(4) 「前夕のある祝日」に注意する。

3．一般的約束事

(1) 現行祈祷書の作成精神に従い、ルブリックに精通し、いろいろな工夫、試みを行うようにする。

(2) 祈祷書をよく読み、どこにどのような祈りがあるか知っておき、いかなる時にもふさわしい祈りを用いられるようにする。

(3) ゴシック体の文章は、初めから唱える。

(4) 祈祷書中の人称（兄弟、彼等）は、祈りの内容に応じてふさわしく読み替える。
(5) 日課朗読者は、あらかじめ朗読する箇所を読んでおき、礼拝前には聖書の箇所を確認（しおりを挟む等）して、読み間違いのないように注意する。
(6) 聖餐式のサーバーは前日に司式者に連絡を取り、祭服など必要事項を確認しておく。
(7) 代祷は、必ず祈りを求める内容を具体的にアナウンスする。代祷の「祈祷文」は「諸祈祷」（106頁以下）だけでなく、内容に応じて「特祷」その他祈祷書全体から選び、多少の字句の修正を行って用いる習慣をつける。
(8) 世界諸教会の代祷は、まず聖公会名（管区名）等を言ってから教区名に移る。国内の場合は、教区名を言ってから教会名に移る。
(9) 聖餐式中の代祷では、初めに（「執事」の呼びかけの後）代祷項目をあげる。または（ことに――）の部分に代祷項目（例：ことに○○聖公会△△教区）を具体的に入れる。
(10) 聖餐式中の代祷で、（ことにわたしたちの主教――）の――の部分は、「ステパノ」と呼ぶ。
(11) 礼拝中の個人の所作については、各自の判断に委ねられる。

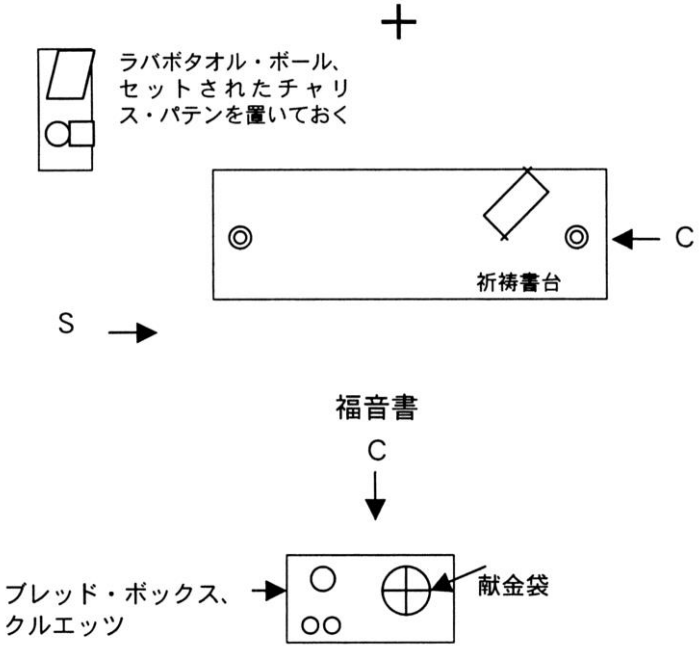
Ⅱ　神学生個人の祈り

わたしたちは神学館共同体としての礼拝によって養われると同時に、神学生一人ひとりの個人の祈りによっても養われる。個人の祈りは共同体の営みを損なわない限り、尊重され、推奨される。そのために チャペルを用いることができる。

Ⅲ　神学館チャペルでの聖餐式の献げ方

◇参入よりみ言葉の部分まで

C：Celebrant（司式者）　**S**：Server（侍者）　　**L**：Lector（聖書朗読者）

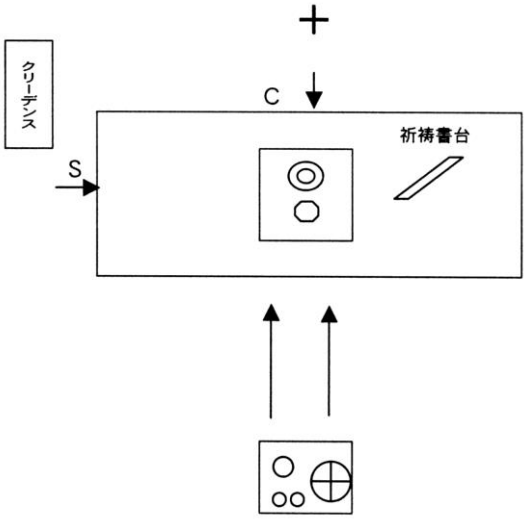


(1) 入堂：聖卓の前で礼をし、左右に分かれる。
(2) 旧約聖書朗読者は、会衆席より使徒書側へ行き、朗読する。
(3) 「詩編」はSが先唱し、S側と司式者側とで交互に歌う。S側と会衆席とで交互に歌ってもよい。「栄光の唱」は用いない。詩編は黙想型の短いものを用いる。
(4) 「詩編」の後、Sは使徒書を使徒書側で朗読する。
(5) Cは、会衆席の中央で福音書を朗読する。

(6)　代祷は会衆席より行う。
(7)　平和の挨拶は全員で握手する。

◇聖　餐　の　部　分

【奉献準備】



(1)　Ｃが奉献唱を唱えた後、Ｓは聖歌をアナウンスする。
(2)　Ｓは、セットされたチャリス･パテンをＣに渡す。
(3)　代祷朗読者は、ブレッド・ボックス、クルエッツをＳに渡す。
(4)　Ｓは、ブレッド・ボックス、クルエッツの盆をクリーデンス・テーブルに置く。
(5)　Ｓは、ブレッド・ボックスからパンを、またクルエッツをＣへ。
(6)　奉献聖歌最終節で、旧約聖書朗読者は信施（袋）をＳに渡し、そのまま待つ。その時、代祷朗読者は旧約聖書朗読者と並んで立つ。奉献担当者は聖歌集を持参する。
(7)　Ｓは、信施をＣに渡す。(または、そのまま捧げ持っている。)
(8)　奉献の祈りの後、Ｃは洗手する。洗手の間に、全員聖卓を囲んで立つ。（祈祷書、聖歌集を持参）
(9)　Ｓは、Ｃの洗手の後、信施をクリーデンス・テーブルに置く。

【感謝聖別】

(1)　全員、祭壇上に注目して式を続行する。
(2)　感謝聖別文はⅠとⅡを隔週で用いる。Ｃはジェネフレクションはしない。また制定語の所作は自由。
(3)　Ｓは「サンクトゥス」「アニュス・デイ」を、Ｃは「記念唱」を先唱する。
(4)　降臨節と大斎節には「近づきの祈り」も用いる。

【陪餐以降】

(1)　アブリューションの後、Ｓはセットされたチャリス・パテンをＣより受け取り、クリーデンス・テーブル上に置く。
(2)　派遣の唱和の後、全員聖卓に礼をし、自席に戻る。

※　５～８頁の諸事項は、ウイリアムス神学館での約束事である。実習教会や出身教会（教区）にもそれぞれのリチュアルがあるので、それに従うこと。

《2019 年度　教 授 構 成》

教授氏名	所　属	担 当 講 義 （ ）内は本年度休講、丸ゴシックは伝道師コース
高地（こうち）　敬（たかし）	京都教区主教・理事長	ギリシャ語Ⅰ
黒田（くろだ）　裕（ゆたか）	京都教区司祭・館長	英書講読、説教論、聖書研究、夏期実習、神学特講 （教会問答、聖公会入門、奨励の意味と実践）
勝村（かつむら）　弘也（ひろや）	神戸松蔭女子学院大学 名誉教授	旧約入門、旧約神学（旧約釈義）
前川（まえかわ）　裕（ゆたか）	関西学院大学准教授	新約入門、新約釈義
嶺重（みねしげ）　淑（きよし）	関西学院大学教授	（新約神学）
岩城（いわき）　聡（あきら）	大阪教区司祭	牧会と宣教（聖公会論、教理学Ⅰ）
濱崎（はまざき）　雅孝（まさたか）	関西学院大学、大阪府立 大学工業高等専門学校、 非常勤講師	教理学Ⅱ
ｸﾗｳｽ・ｼｭﾍﾟﾈﾏﾝ	同志社大学名誉教授	キリスト教倫理学
菊地（きくち）　伸二（しんじ）	彦根聖愛教会信徒 名古屋柳城短期大学教授	教会史、哲学入門、ギリシャ語Ⅲ （ギリシャ語Ⅱ、ラテン語Ⅰ、Ⅱ）
辻（つじ）　彩乃（あやの）	川口基督教会信徒	教会音楽
下田屋（しもだや）一朗（いちろう）	京都教区司祭	ヘブライ語Ⅱ（ヘブライ語Ⅰ）
浦地（うらち）　洪一（こういち）	京都教区司祭	法憲法規特別講義
出口（でぐち）　創（はじめ）	京都教区司祭	（日本キリスト教史）
林（はやし）　和宏（かずひろ）	神戸教区司祭	文献講読、聖書研究（礼拝学Ⅱ）
麓（ふもと）　敦子（あつこ）	京都教区司祭	礼拝学Ⅲ（聖書内容試験Ⅱ、礼拝学Ⅰ、礼拝学入門）

職員と協力スタッフ

氏　名	所　属	担　当
麓（ふもと）　敦子（あつこ）	京都教区司祭	主事
鈴木（すずき）　恵一（けいいち）	京都教区司祭	外部協力スタッフ
—	—	図書館／事務補佐
脇田（わきた）　祐治（ゆうじ）	京都聖ヨハネ教会信徒	後援会会計担当
羽根美恵子（はねみえこ）、和田（わだ）　信子（のぶこ）、田中（たなか）　圭子（けいこ）		食事担当

《ウイリアムス神学館の教育課程》

1．授　業　構　成

学年	旧約学	新約学	教理学	教会史	礼拝学	宣教・牧会	基礎学/語学
1	旧約入門	新約入門		教　会　史	礼拝学Ⅰ		文献講読 英書講読 哲学入門 ギリシャ語Ⅰ バイコン
2	旧約神学 旧約釈義 （隔年）	新約神学 新約釈義 （隔年）	教理学Ⅰ 聖公会論	日本キリスト教史	礼拝学Ⅱ	臨床牧会訓練	ギリシャ語Ⅱ バイコン （ラテン語Ⅰ） （ヘブライ語Ⅰ）
3			教理学Ⅱ キリスト教倫理学		礼拝学Ⅲ	説教論 牧会学 牧会と宣教	（ラテン語Ⅱ） （ヘブライ語Ⅱ） （ギリシャ語Ⅲ）
全					教会音楽	教会実習 夏期実習 特別講義	聖書研究 教会問答

※ゴシック体は必修科目、（明朝体）は選択科目

1年次		2年次		3年次
神学の基礎 3年間の学びをするのに必要な基礎知識、神学書の読み方、語学等、基礎学を中心に学ぶ。	⇒	神学の形成 奉仕職として必要な基礎知識を系統的に学ぶ。	⇒	神学の展開／確認 1・2 年次の学習を発展させつつ学びを整理し、卒業後に向けて自らの弱さ・貧しさに気づく。

① 3 年間の教育課程は、奉仕職として立てられるのに必要と思われる必修科目と、語学関係の選択科目からなっている。神学するための基礎的な力をつけ、できる限り自分の言葉で語ることが重視される。

② 全学年共通科目は必修で 3 年間を通して履修する。ことに教会実習はテキスト学習だけでは身につけることの出来ないコンテキスト学習を、宣教の第一線で働く牧師の生き方を通して身につける。

③ 神学生の資質・能力に併せて、必要に応じて個人指導（チュートリアル）を行うことがある。

④ 神学の学びは教室や実習だけでなく、寮における共同生活、交わり、礼拝を通して形成されることを重視する。

⑤ 学年は 3 学期制で構成され、毎年 4 月 1 日より始まり、翌年の 3 月 31 日に終る。
　1 学期：4 月上旬より 7 月中旬まで、
　2 学期：9 月第 1 月曜日より 12 月中旬まで、
　3 学期：1 月上旬より 3 月中旬まで

⑥ 授業日数は、オリエンテーション、夏期実習（海外もしくは遠隔地研修含む）、リセス、試験・レポート・学期末面接期間を除く、年間 30 週を目処とする。

2．学期末試験について

① 定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。

② 試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。

③ レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。

④ 評価は以下の 5 段階で行い、D 以上を合格とする。ただし A～D については「＋」「－」で表示することもある。なお聖書内容試験に限り 50 点（E）以上で合格とする。

A（100～90 点）　B（89～80 点）　C（79～70 点）　D（69～60 点）　E（59 点以下）

3．神学生の区分

本館は全寮制であるので、学生の就学状態によって以下のように区分する。

① 本科生：3 年間在寮し、所定の全課程を履修する者。

② 特別聴講生：3 年間在学し、所定の全課程を履修する者。

③ 教区派遣科目聴講生：1 年以上在学し、当該教区と神学館の合意のもとに複数科目を履修する者。

4．卒業認定について

本科生で、以下の条件を満たす者について卒業を認定し、卒業証書を授与する。

① 所定の全課程に合格していること。

② 3 年間、寮生活をしていること。

③ 卒業小論文を提出していること。

5．修了・修業認定について

以下の条件を満たす者について認定する。

① 特別聴講生で、所定の全課程に合格した者は修了を認定し、修了証書を授与する。

② 教区派遣科目聴講生で、当該教区との協議により指定された科目を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

③ 本科生、特別聴講生で、所定の課程のうち 9 割を合格した者は修業を認定し、修業証書を授与する。

6．伝道師養成コース

① 目　　的

このコースは伝道師を志願する者が、その職務を果たすのに必要な学識を習得し、礼拝司式者として必要な知識・心構えを身につけるためのものである。

② 修業年限

1 年間（原則全寮制。事情によって通学も可とする）

③ 入学（出願）資格

法規第 43 条・44 条により、伝道師を志願し、教区主教より本学での教育を命じられた者。

④ カリキュラム

必修科目と選択必修科目からなる。選択必修科目は最低 1 科目を履修しなければならない。それ以外に本科生の科目を履修することも可能である。本科生と共通科目、このコース単独の科目がある。

必修科目	共通・通年	旧約入門、新約入門、礼拝学Ⅱ、教会音楽、聖書研究、教会実習、夏期実習、
	単・前／後	前／礼拝学入門、後／牧会学概論と法憲法規
	単・1／2／3	1／教会問答、2／聖公会入門、3／奨励の意味と実践、
選択必修科目	共通・通年	文献講読、英書講読、教会史、教理学Ⅰ、ギリシャ語Ⅰ、聖書内容試験、

⑤ 学期末試験について

ⅰ）定期試験は、各学期末に行う。定期試験を受けなかった者または合格しなかった者については、事情によって再試験を行うことがある。

ⅱ）試験方法は、筆記・レポート等により、担当教員が指定する。

ⅲ）レポートの提出日時は厳守しなければならない。提出方法は担当教員が指定する。

ⅳ）評価は以下の 5 段階で行い、D 以上を合格とする。ただし A～D については「＋」「－」で表示することもある。なお、聖書内容試験は 50 点（E）以上で合格とする。

A（100～90 点）　B（89～80 点）　C（79～70 点）　D（69～60 点）　E（59 点以下）

⑥ 修了認定について

所定の課程に合格した者は修了を認定し、「伝道師養成コース修了証書」を授与する。

《２０１９年度講義科目》

★ 必修科目 ★

1 年 次

文献講読	[林]	伝選
英書講読	[黒田]	伝選
哲学入門	[菊地]	
旧約入門	[勝村]	
新約入門	[前川]	
教会史	[菊地]	伝選
ギリシャ語Ⅰ	[高地]	
聖書内容試験Ⅰ	[林]	伝選

2 年 次

教理学Ⅰ	[岩城]	休講	伝選
聖公会論	[岩城]	休講	
日本キリスト教史	[出口]	休講	
礼拝学Ⅱ	[林]	休講	
ギリシャ語Ⅱ	[菊地]	休講	
臨床牧会訓練	[ﾊﾞﾌﾟﾃｽﾄ病院]	休講	
聖書内容試験Ⅱ	[麓]	休講	

2・3年次合同（隔年）

旧約神学	[勝村]	
旧約釈義	[勝村]	休講
新約釈義	[前川]	
新約神学	[嶺重]	休講

3 年 次

教理学Ⅱ	[濱崎]	
キリスト教倫理学	[シュペネマン]	
礼拝学Ⅲ	[麓]	
説教論	[黒田]	
牧会と宣教	[岩城]	
法憲法規特講	[浦地]	
卒業小論文		

★ 伝道師養成コース必修科目 ★

旧約入門	[勝村]	休講
新約入門	[前川]	休講
(前期) 礼拝学入門	[麓]	休講
(後期) 牧会学概論と法憲法規	[浦地]	休講
礼拝学Ⅱ	[林]	休講
(1学期) 教会問答	[黒田]	休講
(2学期) 聖公会入門	[黒田]	休講
(3学期) 奨励の意味と実践	[黒田]	休講

【伝選】は伝道師コースの選択必修

★ 選択科目 ★

※ 選択科目中の語学は在学中どれかを努めて履修することが望ましい。

2 年 次

ヘブライ語Ⅰ	[下田屋]	休講
ラテン語Ⅰ	[菊地]	休講

3 年 次

ギリシャ語Ⅲ	[菊地]	
ヘブライ語Ⅱ	[下田屋]	
ラテン語Ⅱ	[菊地]	休講

★ 全学年･伝道師コース共通科目 ★

教会音楽	[辻]	
聖書研究	[黒田・林]	1～2学期
実践神学特講	[黒田]	3学期
教会実習	[黒田]	
人間関係論	[ ]	休講

★ その他 ★

集中講義（ハラスメント防止関係）

神学館講演会

特別研修

《２０１９年度学年別講義内容》

≪１　　年≫

文　献　講　読　（林　和広）

Ⅰ．講義内容

この授業では、神学的思考方法に慣れるために、いくつかの基礎的な文献を一緒に読む。授業の方法としては、あらかじめ指定された個所を読み、その内容を要約して発表し、分かち合うゼミ形式で行う。

Ⅱ．評価方法

各自の読書発表と授業参加度、学期末の小レポートで評価する。

Ⅲ．テキスト

＊N .T. ライト『クリスチャンであるとは』上沼昌雄訳、あめんどう、2015 年

＊N .T. ライト『シンプリー・ジーザス』山口希生・山口秀生訳、あめんどう、2017 年

英　書　講　読　（黒田　裕）

Ⅰ．講義内容

神学に関する邦訳書は決して十分とは言えないが、とりわけ聖公会関係の資料となるとその数は格段に少なくなると言わざるをえない。そのため少しでも英書に慣れておくことは今後の学びにとって有益となるであろう。前半では英国宗教改革からエリザベスの宗教解決、聖公会神学（ヴィア・メディア）の登場までの歴史を概観し、それが終わり次第、聖公会の重要な資料を原文で味読することを目標とする。

Ⅱ．講義形式・評価方法

授業は、発表形式もしくは講義による。評価は発表の内容および授業への取り組みによって行なう。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊J. R. H. Moorman, A History of The Church in England, 3rd ed. , N.Y., Morehouse Publishing, 1980(1963)
※とくに XI.-XⅢ。その部分のコピーでもよい。なお、本書には邦訳がある。J. R. H. ムアマン『イギリス教会史』八代崇他訳、聖公会出版、1991 年。本書を適宜参照してもよい。

＊マーク・チャップマン『世界聖公会物語』岩城聰訳、かんよう出版、2013 年

＊八代崇『新カンタベリー物語』（聖公会出版）−入手できない場合は館長に申し出ること

その他資料は授業の中で提示もしくは配布する

哲　学　入　門　（菊地　伸二）

Ⅰ．講義内容

３学期のうち、２学期までは、哲学の誕生から現代に至るまでの流れ、すなわち哲学の歴史をたどる形で進めていく。イエスの誕生以前にギリシアで産声をあげた哲学は、紀元後になるとローマ帝国においてキリスト教と出会い、ここに哲学と神学との関係が生まれることになる。近代に入ると哲学と神学は離れていくように見えるが、哲学がキリスト教から受けた影響（またその逆の影響）は計り知れないものがある。哲学とキリスト教は今日に至るまで密接に関わりながら歩んできたの

であり、哲学について学ぶことはキリスト教をより深く学ぶことにつながる。

３学期は、哲学および神学において論じられてきた主要なテーマ（たとえば自由の問題や悪の問題等）を取り上げながら、その現代的意義についても検討する。

基本的には講義形式で進めていくが、ときには演習形式を取り入れながら、受講生といっしょに考えていく機会としたい。

Ⅱ．成績評価

授業への参加度、各学期末に行う筆記試験等によって評価する。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊今道友信『西洋哲学史』講談社（講談社学術文庫）、1987 年

それ以外のものついては授業中に提示する。

旧　約　入　門　（勝村　弘也）

Ⅰ．講義内容

１学期：旧約の舞台となった地域の風土と歴史を学びつつ、旧約の全体の構成を概観する。続いてトーラー（律法）について、その成立の歴史を概観しながら、いくつかの箇所についてその内容を解説する。聖歌の源泉となっている詩篇についても少し触れる。

２学期：紀元前８世紀中頃以降に登場した預言者について、当時の世界状況とからめて論じる。アモス書、イザヤ書から代表的なテクストを取り上げ読み解く。

３学期：詩篇の研究の歴史を概観しながら、いくつかの詩篇を読み解いてゆく。箴言についても概観する。

Ⅱ．成績評価

数回のテストとレポートを総合して評価する。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】

＊勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993 年

【参考文献】

＊並木浩一／荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社、2012 年

＊その他、授業中に指示する。

新　約　入　門　（前川　裕）

Ⅰ．講義内容

新約聖書に含まれる各文書の成立背景、構成、思想的特色の概要（緒論）を学びつつ、新約聖書全体を学問的に概観する。教科書に沿って、おおむね新約聖書の配列順に学ぶ。毎回の予習として、次回の教科書範囲および当該文書を読んでおくこと。

Ⅱ．成績評価

各学期末の試験および受講への取り組みといった平常点を総合して評価する。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】

＊原口尚彰『新約聖書概説』教文館、2004 年（講義のテキストとして使用するので各自入手するこ

と）その他、補足として必要に応じて資料を配布する。

【その他の参考文献】

（いずれも高価なため必ずしも購入する必要はない；図書室での所在は確認しておくこと）

＊荒井献他『総説 新約聖書』日本基督教団出版局、1981 年

＊大貫隆・山内眞監修『新版　総説 新約聖書』日本基督教団出版局、2003 年

＊田川建三『書物としての新約聖書』勁草書房、1997 年

教　　会　　史　（菊地　伸二）

Ⅰ．講義内容

古代から現代までの 2000 年におよぶ教会の歩みを概観する。基本的に講義形式で行う。

Ⅱ．成績評価

授業への参加度、各学期末に行う筆記試験によって評価する。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊菊地榮三・菊地伸二『キリスト教史』教文館、2005 年

それ以外のものについては授業中に提示する。

ギ リ シ ャ 語 Ⅰ　（高地　敬）

Ⅰ．講義内容

新約聖書を原典で読むために必要な文法を習得する。

Ⅱ．成績評価

各学期末のテストと授業への取り組み（姿勢）による。

Ⅲ．テキスト

＊J.G. メイチェン著『新約聖書ギリシャ語原典入門』田辺滋訳、新生宣教団、2000 年

聖 書 内 容 試 験 Ⅰ　（鈴木　恵一）

Ⅰ．目　標

旧約聖書と新約聖書の各書を熟読し、全体の概要を把握すること。

Ⅱ．成績評価

試験の平均点と「聖書を読む」姿勢の総合評価を含めて、平均点 50 点以上を合格とする。

Ⅲ．テキスト

＊『新共同訳聖書　旧約聖書続編付』（日本聖書協会）を用いる。

≪2　　年≫

旧　約　神　学　－2･3 年共通　（勝村　弘也）

Ⅰ．講義内容

１学期：クラウス・ヴェスターマン著『現代神学の基礎知識　旧約聖書』で扱われている「祝福」「平和」「聖」などの基礎的な概念について学ぶ。あわせてＧ・Ｅ・ライト著『歴史に働く神』を

読んでゆく。

２学期：「旧約の中心」「聖戦」「契約」などに関するいくつかの論文を読む。あわせてＧ・フォン・ラートの『旧約聖書神学』を概観して、そこではどのような問題が扱われているかをみてゆく。

３学期：環境問題、貧困、黙示などアクチュアルな問題について考察する。

Ⅱ．講義形式・成績評価

講義と演習形式を併用する。数回の講義ごとに簡単なテストを行なう。学期末には簡単なレポートを提出してもらう。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊勝村弘也著『旧約聖書に学ぶ』日本キリスト教団出版局、1993 年

＊C・ヴェスターマン著『現代神学の基礎知識　旧約聖書』時田光彦訳、ヨルダン社、1984 年（可能ならば入手しておいてください）

＊Ｇ・Ｅ・ライト著『歴史に働く神　告白的朗誦としての旧約神学』新屋徳治訳、日本基督教団出版局、1963 年

＊ノルベルト・ローフィンク著『反貧困の神』大宮有博訳、キリスト新聞社、2010 年

＊C・ヴェスターマン編『旧約聖書解釈学の諸問題』時田光彦訳、日本基督教団出版局、1975 年

＊G・フォン・ラート著『旧約聖書神学』荒井章三訳、日本基督教団出版局、1980 年

＊G・フォン・ラート著『イスラエルの知恵』勝村弘也訳、日本基督教団出版局、1988 年

＊樋口進・中野実編『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、2008 年

＊Claus　Westermann, Theologie des Alten Testaments in Grundzugen, Goettingen, 1978

旧　約　釈　義　－2･3 年共通　（勝村　弘也）

本年度休講（隔年開講）

新　約　釈　義　－2･3 年共通　（前川　裕）

Ⅰ．講義内容

新約聖書釈義の基礎を学んだ上で、教室での発表を通じて釈義の具体的な方法を学ぶ。1 学期は福音書、2 学期はパウロ書簡、3 学期はその他の文書を主に扱う。

Ⅱ．成績評価

授業発表の評価点等の平常点を総合して評価する。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】

＊G. D. フィー『新約聖書の釈義』、教文館、1998 年

【参考文献】（必ずしも購入しなくてよいが、図書室等での所在は確認しておくこと）

＊日本キリスト教団出版局編『聖書学方法論』、日本基督教団出版局 1979 年

＊原口尚彰『新約聖書釈義入門』、教文館、2006 年

＊樋口進・中野実監修『聖書学用語辞典』、日本キリスト教団出版局、2008 年

＊淺野淳博他『新約聖書解釈の手引き』、日本キリスト教団出版局、2016 年

教　理　学　Ⅰ　（岩城　聡）

本年度休講

聖　公　会　論　（岩城　聰）

本年度休講

日本キリスト教史　（出口　創）

本年度休講

礼　拝　学　Ⅱ　（林　和宏）

本年度休講

ギリシャ語Ⅱ　（菊地　伸二）

本年度休講

臨床牧会訓練　（日本バプテスト病院）

本年度休講

聖書内容試験Ⅱ　（麓　敦子）

本年度休講

≪3　　年≫

旧　約　神　学　－2･3年共通　（勝村　弘也）

P.14. 参照

旧　約　釈　義　－2･3年共通　（勝村　弘也）

本年度休講

新　約　神　学　－2･3年共通　（前川　裕）

本年度休講

新　約　釈　義　－2･3年共通　（前川　裕）

P.15. 参照

教　理　学　Ⅱ　（濱崎　雅孝）

Ⅰ．講義内容

①宗教改革以後の神学が世界に与えた影響を理解する。
②20世紀の神学の動向を網羅的に把握する。
③現代人の信仰の神学的背景を客観的に説明する方法を学ぶ。

Ⅱ．講義形式・成績評価

テキストの内容を講師が説明し、受講生は指定された文献を読んで要約文を作成していきます。
成績は要約文と期末レポートによって評価します。

Ⅲ．テキスト、参考文献

【教科書】
＊バルト『教義学要綱』(1993、新教出版社)
＊バーガー『現代人はキリスト教を信じられるか』(2009、教文館)
【参考書】
＊佐藤優『宗教改革の物語』(2014、角川書店)
＊佐藤優『神学の思考』(2015、平凡社)
＊佐藤優『神学の技法』(2018、平凡社)
＊金子晴勇『宗教改革の精神』(2001、講談社)
＊トレルチ『近代精神の本質』(1981、ヨルダン社)
＊ツァールント『20 世紀のプロテスタント神学』(1978、新教出版社)
＊バルト『福音主義神学入門』(1968、新教出版社)
＊バルト『知解を求める信仰』(2015、新教出版社)
＊ブルトマン『歴史と終末論』(1959、岩波書店)
＊ブルトマン『イエス』(1963、未来社)
＊ティリッヒ『信仰の本質と動態』(2000、新教出版社)
＊ティリッヒ『近代プロテスタント思想史』(2005、新教出版社)

キリスト教倫理学　(シュペネマン・クラウス)

Ⅰ. 講義内容

現代社会が直面している問題をキリスト教の立場から判断できることを目的にして、キリスト教倫理学の根本的な概念と方法を紹介する。第 1 学期に主に生命倫理の問題、第 2 学期と第 3 学期に社会の代表的な問題を取り上げる。

Ⅱ. 講義形式・成績評価

各学期末のレポートと授業中の発表によって総合的に判断する。

Ⅲ. 参考文献

授業にプリントを配布し、各テーマについて参考文献を紹介する。

礼　拝　学　Ⅲ　(麓　敦子)

Ⅰ. 講義内容

「聖餐式」と「聖職按手式」を学ぶ。
それぞれの式について、その背景にある神学、式の成立の歴史を学び、現行祈祷書における式についての理解を深めたい。

Ⅱ. 評価方法

授業での発表とレポートによって評価する。

Ⅲ. テキスト・参考文献

【1 学期授業開始までに入手必須のテキスト】
＊『1938 年／1959 年／1990 年日本聖公会祈祷書（改訂第 2 版第 1 刷)』
＊P.F.ブラッドショー『初期キリスト教の礼拝』荒瀬牧彦訳、日本キリスト教団出版局、2006 年
＊J・A・ユングマン、福地幹男訳『ミサ』オリエンス宗教研究所、1992 年
【その他の参考文献】
＊W.R.クロケット『ユーカリスト』後藤務訳、聖公会出版、2014 年
＊森譲『続　信仰を生活する』日本聖公会出版事業部
＊『改訂増補　日本聖公会祈祷書解説』日本聖公会管区事務所

説　　教　　論　（黒田　裕）

Ⅰ．講義内容

説教作成の方法を、理論的かつ実践的に学んでゆく。年間の前半は、説教の歴史、説教論をめぐる諸問題について考えながら説教作成の基本的な方法を学ぶ。前半で学んだことを踏まえ活かしながら、後半は説教演習を行っていく。

Ⅱ．講義形式・評価方法

授業は、テーマによって学生の発表形式もしくは講義による。評価は授業への取り組みによって行い、とくに年度の後半では、演習での発表の内容によって行なう。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊黒田裕『今さら聞けない!? キリスト教―聖書・聖書朗読・説教編』教文館、2018 年
＊Ｄ．ボンヘッファー『説教と牧会』森野善右衛門訳、新教出版社、1975 年
＊関田寛雄『聖書解釈と説教』日本基督教団出版局、1980 年
＊関田寛雄『「断片」の神学―実践神学の諸問題』日本キリスト教団出版局、2005 年
＊エドワーズ、Ｊr., O.C. 「聖公会の説教とは？」（浜屋憲夫訳）、ウイリアムス神学館紀要『ヴィア・メディア』、２（1998 年）
その他は授業中に提示する。
＊以下は参考まで
・Yngv Brilioth, trans. Karl E. Mattson, A Brief History of Preaching（Philadelphia: Fortress, 1965）
・O. C. Edwards Jr., A History of Preaching, Abingdon Press, 2004
・R. H. Fuller, What is Liturgical Preaching ? Studies in Worship and Ministry, London, SCM Press, 1957

牧 会 と 宣 教　（岩城　聰）

Ⅰ．講義内容

近年アングリカン・コミュニオンではパリッシュ制度を宣教的に捉え直す動きがあり、そこでは、宣教とはパリッシュに居住する全住民の魂への配慮（牧会）と理解されている。また日本聖公会においては 2012 年宣教協議会において「丁寧な牧会」が宣教のキーワードとして提唱された。そこで、牧会、宣教それぞれ固有の課題を理解することはもちろんのこと、それに留まらず、両者を相互関係のうちに学ぶ必要がある。この講義では、もっぱら前半で牧会（牧会諸式「懺悔の式」「聖婚式」「誕生感謝の式」「病人訪問の式」を含む）について、後半で宣教について学ぶが、その際、両者の関連を常に意識することが求められる。またフィールドワークも何回か行なう予定である。

Ⅱ．評価方法

記述式テストまたはレポート、ゼミの準備を含めた参加度で評価する。

Ⅲ．テキスト・参考文献（※はすぐ使用する）

＊Ｄ．ボンヘッファー『説教と牧会』森野善右衛門訳、新教出版社、1975 年
※H. J. M. ヌーウェン『傷ついた癒し人』西垣・岸本訳、日本キリスト教団出版局
※ケネス・リーチ『牧者の務めとスピリチュアリティ』竹田眞監訳、石井智子訳、聖公会出版、2004 年
＊日本聖公会管区事務所『日本聖公会法憲法規』日本聖公会管区事務所
＊WCC 世界宣教・伝道委員会編『現代の宣教と伝道』新教出版社
＊デイヴィッド・ボッシュ『宣教のパラダイム転換上・下』東京ミッション研究所
＊E. H. ピーターソン『牧会者の神学』越川弘英訳、日本キリスト教団出版局、2003 年

＊W.H.ウィリモン『牧師』越川弘英・坂口清音訳、新教出版社、2007 年
＊W.H.ウィリモン『牧会としての礼拝』越川弘英訳、新教出版社、2002 年
＊森　譲『信仰を生活する』『続・信仰を生活する』聖公会出版
＊『1938 年／1959 年／1990 年日本聖公会祈祷書（改訂第 2 版第 1 刷)』
　－その他適宜紹介する。

神　学　特　講 (3 学期)　（黒田　裕）

聖職試験においては牧会と宣教の実践を踏まえた良問が毎回出題されているが十分に論述されていない解答が少なくないのもまた事実である。この講座では過去の問題を素材としながら、そこで問われている課題を主体的に受け止めそれを応答的に論述できるようになることを目指す。ゼミ形式で行い、授業の参加度と発表の内容によって評価する。

卒　業　小　論　文

Ⅰ．小論文作成のねらい

神学館の学びを通して得たものを集成し、卒業後の自らの宣教・伝道・牧会活動の指針となりうる課題、あるいは卒業後継続して学ぶ研究テーマの端緒となる課題について、指導教授の指導のもとで作成する。

Ⅱ．小論文提出資格

本科生は提出しなければならない。特別聴講生および教区派遣科目聴講生は、希望により提出することができる。

Ⅲ．小論文作成要項

１．内容・字数

＊内容はねらいに即したもの。
＊字数：12,000 字以上 20,000 字程度

２．テーマの選定等

＊２年次、年度末面接時に、館長に希望課題を報告する。
＊３年次、５月中旬（連休明け頃）までに、課題を決定し、指導教授を決める。

３．中間発表（レジュメを学生と教員分、用意すること。）

＊**日　時**：第 1 回 2019 年 6 月 6 日（木）15:15～
　　第 2 回 2019 年 11 月 7 日（木）15:15～
＊**場　所**：ニコルス館食堂
＊**内　容**：小論文のテーマ、ねらい、概要（目次）等を発表する。

４．最終発表（内容を 1,600 字程度のレジュメにまとめ、学生と教員に配布すること。）

＊**日　時**：2019 年 3 月 11 日（水）15:15～
＊**場　所**：ニコルス館食堂
＊**内　容**：小論文の内容について発表する。

５．小論文の提出

＊**提出期限**：2020 年 3 月 12 日（木）正午まで（期限厳守）
＊**提 出 先**：館長まで
＊**提 出 物**：小論文（プリントアウトしたもの）１部
　　小論文概要（1,600 字まで）１部
＊提出にあたって：小論文概要はヴィア・メディアに掲載するため、ワードファイルで館長まで e メールで送付すること。また小論文本体もプリントアウトしたものとは別に、e メールで送付すること。（kuroda@bp-williams-seminary.org）

６．小論文作成にあたっての注意事項

① 引用等にあたっては、必ず脚注をつけること。
② 脚注はページ末脚注。ワードの場合は「挿入」→脚注で操作できる。
③ 論文作成や脚注の作り方（作法）について分からない場合は、担当教員に聞くか、例えば以下のような本を買って学ぶこと。
＊古郡廷治『論文・レポートのまとめ方』1997 年、筑摩書房、他

≪選　択　科　目≫

ヘブライ語Ⅰ　（下田屋一朗）

本年度休講

ヘブライ語Ⅱ　（下田屋一朗）

Ⅰ．講義内容

（１）ヘブライ語Ⅰの続き：初級文法の残りの部分（動詞の変化）を学ぶ。
（２）聖書（BHS）本文の講読；創世記など大きな書の一部、比較的小さい独立した書（小預言書 －マラキ書、ヨナ書など、およびいくつかの詩篇）を予定しているが、詳細については進度に応じて受講者と相談しながら決める。

Ⅱ．成績評価

授業および課題への取り組みによる。

Ⅲ．テキスト・辞書・参考文献（＊は必携）

＜テキスト＞

＊ Biblia Hebraica Stuttgartensia.(BHS)

＜辞書＞

＊ The Brown-Driver-Briggs Hebrew and English Lexicon, (Coded with Strong's Concordance Numbers), Hendrickson Publishers .(BDB)

Koehler & Baumgartner, The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Brill. (HALOT, Study Edition, 2 巻本)

T.J. Murphy, Pocket Dictionary for the Study of Biblical Hebrew, IVP Academic, 2003.

＜参考文献＞

P. H. Kelley, D.S. Mynatt and T.G. Crawford, The Masorah of Biblia Hebraica Stutttartensia, Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 1988.

E.R. Brotzman and E.J. Tully, Old Testament Textural Criticism, 2nd ed. , Baker Acadimic, 2016.

R.J. Williams, C. Beckman, Williams' Hebrew Syntax, 3rd ed., University of Tronto Press, 2007.

C.H.J. van der Merwe, J.A. Naudé and J.H. Kroeze, A Biblical Hebrew Reference Grammar, Sheffield Acadimc Press,1999.(MNK)

E.Kautzsch, translated by A.E.Cowley, Gesenius' Hebrew Grammer, Oxford University Press.(GKC)

P. Joüon-T.Muraoka, A Grammar of Biblical Hebrew, Gregorian & Biblical Press (JM)

B.M.Waltke and M.O'Connor, An Introduction to Biblical Hebrew Syntax, Eisenbrauns. (WO)

W.G.E. Watson, Classical Hebrew Poetry, JSOT Press, 1986.

ギリシャ語Ⅲ （菊地　伸二）

本年度休講

ラテン語Ⅰ （菊地　伸二）

本年度休講

ラテン語Ⅱ （菊地　伸二）

本年度休講

≪全　学　年　共　通≫

教会音楽 （辻　彩乃）

Ⅰ．講義内容

毎日の礼拝で用いる聖歌やチャントを、伴奏がなくても正しく歌えるように練習します。
それと並行して読譜のための基礎的楽典やソルフェージュ、旧約聖書の時代から現代までのキリスト教音楽史、聖歌の発展史、聖歌集に関する基礎知識などを学んでいきます。
また、礼拝における聖歌の選び方を実践的に学びます。

Ⅱ．成績評価

各学期末の試験、授業への参加度で評価します。

Ⅲ．テキスト・参考文献

＊『日本聖公会聖歌集』日本聖公会管区事務所、2006 年（第 2 版が望ましい）
＊宮崎光『聖公会の聖歌―いのちを奏でよ』聖公会出版、2008 年

聖書研究 (1～2 学期) （黒田　裕）

神学生が主体となって聖書の学びを進める。単なる聖書講解ではなく、み言葉を解釈する者と聴く者としての姿勢、また、み言葉を聴いてこの世の人々に共感をもって伝えていく者としての姿勢を養う。今年度は「ヨハネによる福音書第 13 章 21 節」から学ぶ。なお、今年度は隔週で実施するが、月一回程度「読書会」を行なうので実質月一回程度となる。「読書会」の書籍は、N.T.ライト、山口希生訳『新約聖書と神の民 上巻―キリスト教の起源と神の問題』新教出版社、2015 年、を予定している。

実践神学特講 (3 学期) （黒田　裕）

通常の授業では取り上げられない課題について、神学生が主体となって学びを進める。具体的には「教会問答」を、①信仰論（信経/聖書/主の祈り）、②サクラメント論、③教会論/ミニストリー論に分けて順次取り上げ、今年度は「サクラメント論」について研究する。教会問答を最初から始める。

教会実習 （黒田　裕）

指導司祭の指導のもとに、派遣された教会における「神の宣教」(ミッシオ・デイ）に参与し、学び、教育され、将来の叙任された奉仕職（聖職）の働きに備える。
神学生に具体的に期待されることは、「①奉仕職とは何か、どのような生き方なのかを、指導司祭の背

中（生き方、在りよう）を見て感じること」「②信徒、求道者の方々との関わり方や関係のあり方を、指導司祭の背中（生き方、在りよう）を見て感じること」「③この世に仕えるものとしての教会のありようを、体験的に学ぶこと」である。神学生が実習教会の信徒の方から万が一「先生」と呼ばれても、そのことに違和感を感じ、自らが「仕える者」として召され、遣わされていることを体験的に学ぶことが期待されている。
神学生には「教会実習ノート」が配布され、それに必要事項を毎回書き込み、学期末に提出する。
１年生は土曜日の午後から日曜日の午後にかけて教会実習を行う。２・３年生は日曜日の朝から午後にかけて教会実習を行う。

夏　期　実　習　（黒田　裕）

宣教の現場の中で、人々との出会いを通して自らの生き方、信仰、自分自身に気づき、テキストからの学びとコンテキスト（文脈・状況）からの学びの統合を試みる。３年に１回、海外もしくは遠隔地研修を行なう。

≪伝道師養成コース≫

2019 年度は休講。

＜今年度休講の科目＞

【１　年　次】　なし
【２　年　次】　全科目
【２・３年次】　旧約釈義、新約神学
【３　年　次】　なし
【選択科目】　ギリシャ語Ⅲ、ラテン語Ⅰ、ラテン語Ⅱ、ヘブライ語Ⅰ
【伝道師養成】　全科目

注）各講義の使用文献・参考文献のうち絶版になっているものもあります。
図書館・先輩等に借りる、あるいは古書店で購入してください。
古書店はインターネット上でも検索・注文できますので、下記の参照してください。
スーパー源氏　：http://www.sgenji.jp/
日本の古本屋　：http://www.kosho.or.jp/servlet/top
古書店つのぶえ　：http://www.tsunobue.jp/
アマゾン(和洋書/古書)　：http://www.amazon.co.jp/

《図書館の利用の仕方》

今年度も引き続き、図書の整理を精力的に行う。分かりにくいことは主事または図書館担当の岡野さんに尋ねること。借り出しの方法も変更があるかもしれないが、その都度指示に従うこと。

◎貸し出しの方法（原則的な事柄）

(1) 机上の「貸し出し記入表」に、分類コード・番号、書名、年月日、氏名を記入する。
(2) 貸し出し期間は、借りた日より２週間。期日厳守。
(3) 聖書、事典、辞典、注解書は「禁帯出」である。教室で使用の場合、またコピーする場合、終わり次第直ちに「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。
(4) 図書室での勉強、読書、調べものは、閲覧室の代わりに授業のないときの「教室」を用いる。
(5) 借りたい本が書架にない場合は、本は「貸し出し記入表」を見、借りている人を探す。
(6) 学期末にはすべて返却する。休暇中に貸し出しを希望する場合には、主事または館長の許可を得ること。
(7) 返却は、「貸し出し記入表」に返却月日を記入の上、「元あった書棚の所」に「自分で」戻す。その際、ラベルの 1 段目の大文字アルファベット、2 段目の数字が書架を示しているので参考にすること。

A
1
1 2 3 4

(8) 図書室、教室はもちろん、第２ビル内は禁煙。

《生 活 上 の 注 意》

＊以下は、ウイリアムス神学館で共同生活を営むための最低限のルールである。神学生諸君の大人としての常識と良識が期待されている。

（1）浴槽は、原則として月、水、金に使用する。シャワーは随時使用することができる。
（2）毎朝朝食前に、食事当番以外は公の場（玄関、食堂、コモン・ルーム、階段、廊下、トイレ、構内）の掃除をすること。(掃き掃除、ふき掃除)。教室を常にきれいにすることを心がけること。
（3）主日、月曜日、国民の祝日（2 月 11 日を除く）を除く毎日の朝食と土曜日の昼食（弁当）は、当番が用意する。
（4）１年生のみ、土曜日の夕食と主日の昼食は、実習教会で用意していただく。２・３年生は、主日の昼食を実習教会で用意していただく。
（5）門限は午後 11 時とする。教会実習で門限に遅れる場合には、指導司祭にその旨を神学館まで連絡していただくこと。
（6）公の場には、原則として私物を置いたままにしない。いつも整理整頓に心を配ること。
（7）水道光熱に関して、無駄な使用は厳に慎むこと。電気はまめに消すこと。神学館運営経費の多くが、全国の教会や信徒の皆さんから献げられた献金で成り立っていることを覚えて欲しい。
（8）教授が休講その他授業に関する変更を指示した時は、館長・主事及び聴講生にその旨を伝え、ニコルス館ホワイト・ボードの休講欄に記入する。またそれに伴う昼食の用不要を確認し、食事係に連絡する。
（9）学生会は、自主的運営を原則とするが、決定事項は必ず館長･主事にも伝えること。また必要ある事柄（公のもの、対外的なもの）は、予め主事または館長に相談すること。
(10) 学生の役割分担の中に、保健衛生と営繕係を 1 名決めること。保健衛生係は薬箱を管理し、学生の健康状態に配慮する。営繕係は寮内営繕に関する学生側の窓口となる。
(11) お客様が来られた時は、応対・接待を大切にすること。
(12) 特に夜、ホテルの営業の妨げとなるような行為を絶対にしないこと。
(13) 土地建物は教区のものであり、管理は教務所が行っている。関係を大切に。教区と交渉する必要のあるときは、必ず館長・主事を通すこと。
(14) 健康管理は自分で。
(15) 火の取扱いには特に注意すること。冬期の灯油の取扱い、台所の火の始末には細心の注意を払うこと。
(16) ニコルス館（寮)、教区センター側の 4 室および建物内、第２ビル（教室・図書室）は全館禁煙である。
(17) 寮の全室に LAN が設備されている。使用は自由であるが有料サイトには絶対にアクセスしないこと。また個人用パソコンのウィルス対策ソフト等は必ず各自の責任でインストールすること。
(18) コモン・ルームに設置されているパソコンは、神学生がレジュメなどの提出物を印刷する際に使用できる。
(19) コピー機の使用に関して、神学生一人ひとりに個人用 ID と授業用 ID を渡す。個人用 ID は私的コピーのため（授業準備も含む）に使用し、授業用 ID は授業で配布するレジュメのために用いる。授業用のものは無料であるが、私的コピーは自動的にカウントされ各学期末に清算する。学生会用には別途学生会 ID を渡す。コピー機の使用方法については、上級生に聞くこと。コモン・ルームの印刷機の使用については主事または館長の許可を取ること。
(20) 神学生（聖職候補生）として神学館に学んでいるということは、一般の学生生活とは違う。自分の言動、服装、その他に神学生（聖職候補生）としての自覚と責任を持つこと。「自分の思いのままに」ではなく「キリストの十字架を背負う」とはどういうことかを、神学・礼拝・生活を通して真

剣に考え続けて欲しい。

（21）学期中に外泊をする場合は、必ず所定の書式による「外泊届」を主事または館長に提出し、許可を得ること。

（22）寮の各部屋の鍵は各自で管理し、学年末には館長または主事に返却すること。

（23）出寮日以後、やむを得ない事情があって寮に滞在する場合、主事に滞在願いを提出し、館長の承認を得ること。ただし、夏期は１泊 500 円、冬・春期は１泊 700 円を神学館に納める。（卒業・修了時に任地に赴くまでの春期の３月中の滞在を除く。）

（24）寮室は原則として、毎年移動する。

（25）その他、常に館長・主事と連絡を密にすること。又、集団生活での約束事を主体的に守り、学生相互のコミュニケーションを大切にして、明るい寮生活ができるように心を配ること。

（26）なお、館長、主事が不在の時に、連絡等が必要になった場合には、ニコルス館（寮）の公衆電話前に掲示してある携帯電話等に連絡すること。

《聴　講　制　度》

１．聴講制度について

2007年度より科目聴講の門戸を今まで以上に大きく開き、下記の条件のもとで、開講することにした。より多くの信徒の方が、この聴講制度を利用して教会の教えや神学についてより深く学び、それぞれの教会で自らの賜物を用いて奉仕の業に励み、また信仰を深められることを期待する。

２．聴講の条件等

１．聖公会信徒の方。

２．学期末のテストを受けるか、レポートを提出できる方。

３．所定の聴講料を納付した方。

４．所定の成績を修めた方には、申し出があれば科目履修証明書を発行する。

５．定員によっては開講できないこともある。

３．2019 年度開講科目（授業内容、担当教員は学年別講義内容を参照のこと）

＊哲学入門（募集定員　５名）　＊旧約入門（募集定員　５名）　＊新約入門（募集定員　５名）

＊教会史（募集定員　５名）　＊教理学Ⅱ（募集定員　５名）　＊礼拝学Ⅲ（募集定員　５名）

＊教会音楽（募集定員　５名）　＊キリスト教倫理学（募集定員　５名）

４．聴　講　料

＊１科目　45,000 円（年額）

５．聴講手続き

１．聴講申込書に必要事項を記入の上、神学館宛てに郵送するか、ファックスで申込むこと。
担当教員と館長の同意で聴講が許可される。

２．聴講料は最初の授業の時に納付すること。

３．申込締切　４月６日（土）必着

＊できるだけ早めにお願いします。電話でも結構です。後日申込書をご持参ください。

６．授業日程（試験週を含む）

１学期　４月１０日（火）～　７月２１日（土）

２学期　９月　５日（水）～１２月　８日（土）

３学期　１月　９日（水）～　３月　９日（土）

７．そ　の　他

＊神学館の図書館を利用できます。

＊昼食が必要な方はお申し出下さい。実費。

《今さら聞けない!?　キリスト教講座》

教会生活はそれなりに長いのだけれど、こんなこと今さら聞けない、などと疑問に思っておられることに答える、2014 年度からはじまったキリスト教講座です。

今年は「新約聖書」についてです。

担当：前川裕教授　　対象：日本聖公会信徒　　場所：ウイリアムス神学館

日時：年 10 回　土曜日

午後 2 時～午後 3 時 30 分

5/4、6/1、7/6、9/21、10/5、11/2、12/7、1/18、2/1 、3/7

費用：教室受講コース　　8,000 円（1 年間 10 回講義）

教室受講＋ネット受講コース　　10,000 円（ネット受講のみの方もこのコースです）